

研修生：生月菜々子

①訪問団体の活動やマネジメントなど、どの部分を日本のボランティアリーダーとして生かせるか

[組織運営について]

◎一番基礎で最も重要「目的を明確にすること」

活動を続けて行く中で社会の在り方・人に触れたり様々な出来事を経験していくと、たまに方向性や自分たちが行っている活動は「何のためにやっているのか」がブレたり・分からなくなることがある。社会の課題を解決するためのニーズに合っているのか？自分たちが本当にやりたいことは何なのか？自分に、仲間に、団体に問いかけが必要である。ドイツの自然環境保護団体の団体目的は「自然保護、環境保護」であって、それを達成するためのプロジェクトをいくつも実施している。そのプロジェクトごとに、目的が明確にされているので活動の共感や内容がはっきりとしている。

組織の目的を達成するための手段はたくさん視野を広げる必要があるが、ここで団体の目的をきちんと満たすような事業を考えなければならない。そして、団体を運営するための必要なマネジメントスキルを団体の性質に合わせて構築していかなければならない事を学んだ。リーダーとして、目指すものをしっかりと見極め、ブレないことが大事である。

●団体の目的（何のためにするのか）

↓

○マネジメント（団体・事業運営を行う上で必要なコントロール）

- 会員
- 事務局運営
- 資金調達（ファンドレイジング）
- 広報…etc

○事業（目的を達成するための手段）

◎会員・若者の人材育成の場

団体の目的を達成していくための根本的に必要な事柄として、次の世代を育てて引き継いでいくということがある。今日の様々な団体は、団体としての目的ではなく、トップ個人的な目的となってしまう傾向があるので、「目的を達成するための組織運営」が成されていない現状が多いと感じている。団体を継続していくために組織として必要な会員を育てていくこと重要だなと感じた。次に引き継がなければ、組織として運営する意味がなくなってしまう。次に引き継ぐ者がいないのではなく、トップが次に引き継ごうとしていないなど感じる場面は常に私が感じていることだ。「必要とされていること」が分からなければ、人は育たないし、団体の目的にも共感しにくいかもしれない。リーダーとして会員に想いが伝わるようにきちんと意思疎通が出来るような人材育成の場がとても必要だと感じた。

[団体の収支割合について]

・NABUの収支割合を拝見して、とても「会員費」が必要な部分だということが分かった。組織を成り立たせるための管理費を安定的に確保しないと事業が出来ないとい

うのは、常に感じていたことであつたが、今日の収支割合を見たことに今後の団体としての収支が明確になった。団体の目的を明確にし、共感してもらうことで会員になってもらうことがどれだけ重要であるかを、まずは団体の役員がしっかりと認識しなければならぬと感じた。今までの中途半端な団体運営が少し恥ずかしいと思った。今後、自分の団体を法人化する時にはしっかりと収支の割合や費目ごとの必要性を認識したうえで収支の構成を行いたいと思う。

[寄付について]

・会社や企業のスタイルに合わせて、「資金」を寄付してもらうことを前提とするのではなく、その企業が得意な事（例：業種に合わせて、例えば建設会社なら1日重機作業を手伝ってくれるとか）をこちらが認識をして頼むという考え方が重要だと感じた。「寄付」=「金」ではない。「寄付」とは、相手が私たちの活動に対して「思い」を提供してくれること。

[ファンディングについて]

データベースファンディングを学んだ。しかし、今回は大きな組織でのデータ管理を学んだので、自分の団体の事業規模に合わせて行かせるように考えた。寄付者のデータを管理する中で、お金の寄付に関する記録だけではなく、物やボランティア（その人の時間・技術）の管理も行う必要があり、整理することで、次回からも寄付のお願いを頼みやすくなることがわかった。寄付者から提供してもらえることが分からなければ、こちらからお願いもしにくい場面もあるが、分かっているならばお願いできることもたくさんある。そして、頼られた方も自分ができることを提供できるのでとても充実した関係性が築けることが分かった。

②研修を通して、日本の環境ボランティアリーダーを支援するために、どのような仕組みが必要か。

○10代～20代までの人材育成の場づくり

現在、日本中の大学に設置される環境学部と呼ばれる学部を卒業しても、学んだことをそのまま仕事に結び付けられる就職先はほぼない。社会のニーズに合わせて、環境分野を学ばせようと環境学部を位置づけて入口を作ったのは良いが、出口である雇用先がないのが現状である。日本で実施されているインターンシップや実習期間は、ほんの少しの体験という位置づけである。そのような短い期間ではなく、学生時期から若しくは卒業してから1～2年程かけて、環境分野の団体で働けるような制度があれば良いと感じた。企業の雇用対策で緊急雇用制度があるがそれも1年間後には再雇用をしなければならないので、組織中での人材育成がしにくい部分がある。一定期間、最低限の生活が保障されていることで、組織としても安心して人材育成が出来る環境が必要である。若い世代の人たちも失敗するという経験が許されない環境や、進学から就職までの経歴がその人の全てという見方ではなく、本人がやりたいことをチャレンジできるような環境をつくるべきだと思う。そこで一つ案としての仕組みを提示する。

案：〔日本環境団体人材育成プログラム〕

◎日本中の環境団体の情報を確認できるデータベース（どこかが事務局をする必要がある）まずは、各地区ごとの取りまとめから初めても可

↓

◎全国の大学・専門学校・短期大学・ハローワーク等から人材育成研修を組めるような提携を結ぶ

↓

◎財団等と連携して、人材育成中の研修生の生活基盤を保障できるような仕組み作り

①基本的な必要経費の洗い出し（1人受け入れ）

②受け入れてくれる団体の設定

③研修希望者と団体のマッチング

この先、日本の環境団体が本当に人材育成に力を入れていきたいと思っているのかどうか今の時点では分からないが、人材育成したいと思っている団体と環境団体で仕事をしたいという人のニーズをマーケティングする必要があると感じた。

③全体を通しての感想

今回の研修で一番刺激を受けたのは、マネジメントの部分で特に「会員費」「寄付」という位置づけであった。今まで自分の団体では、事業収入と助成金を主な財源とし、その二つの財源から管理費と事業費の支出を行っていた。今回の研修で訪れたNABUやBUNDでは、全体収入の約3分の1～3分の2を会員費と寄付が占めており、必要な管理費については、会員費という毎年必ず得る収入であり団体の流動資産の部分で安定的に組織の運用を行うというスタイルであった。これこそが正に、継続的に社会貢献分野で活動を行うNPO団体の収支体系であると感じた。非営利活動でもそこに働く人々がプライドを持って仕事をするということに自分が価値を感じているのであれば、いかに団体の事業を運営するのかを最優先に考えるべきであると感じた。また、今まで活動を行う中で、日本で感じられている「ボランティア」という概念と海外における「ボランティア」はどこか違うと感じており、その違いを実際に見てみたいという気持ちが強かった。そして、実際にドイツで環境保護団体に所属してボランティア活動を行っている人々に触れてみて感じたことは、「自分にできる事を相手（守りたいもの）の為に行動する」ということだ。行く先々の団体関係者の方々は、自分たちの活動が何でやれるのか、その情熱はどこから来るのかという質問に誰もが笑顔で「好きだから」と答えてくれた。もっと詳しく理由はあるのだろうが、誰もが共通して「好きだから出来る」と自信を持って答えてくれたことが私は本当に嬉しく感じた。私も同じ気持ちだったからだ。活動を行う中で自分の気持ちを、行動の意味を相手に伝えたいと思った時には、「恋愛」と同じように考えると良いということも学んだ。人と気持ちを通じ合わせるからこそ、活動を行う中でも、それを成り立たせるための寄付をもらうということでも重要だと思う。もう一つ、大事だなと感じたことが「仲間」がいるということだ。私は、長崎で一緒に活動している仲間がいる。しかし、普段から自分の想いを伝えることはあまりない。本当の想いを伝える為には、自分を変えなければならない。今までの自分には、自信がなく、人に自分の想いを伝

えることを恥ずかしく感じていた。しかし、仲間と一緒に、本当に今後ずっと継続していける NPO 団体を作りたいと思ったら、私が変わる必要があると感じた。周りが変わるのを待つのではなく、自分からリーダーとして変わっていくことで、周りの人達も変えていきたいと思う。

今回の研修では、本当に多くの指導者・仲間を得たと思う。10 日間一緒に学んだ研修生の皆さんからは、本当にたくさんの知識と想いを頂いた。私が、ドイツのこの研修から帰った後、「日本での現状や課題を見ると落ち込むこともあるだろうなと思うかもしれない。」と不安をこぼすと、「今回の研修で一緒に学んだ私達がいるから一人じゃないよ。」と言ってくれた。本当に嬉しかった。研修生たちは皆、活動も、地域も違うけれども同じ想いを持った仲間がいると思うとこれから先、心強いと感じた。私は、まだまだ経験も少ないし、知識も不十分。でも、想いでは負けません。これから先、日本でもっと環境ボランティアリーダーたちが活躍できるように。そして、その人達の「想い」が活動を通して、より多くの人を巻き込めるように頑張りたいと思います。

今回の海外研修にあたって支えてくれた方々へ。

募金をして下さった皆様、セブン-イレブン記念財団事務局様、環境保全教育研究所の皆様、親戚たち、いつも活動を応援してくれている長崎の人々、本当に有難うございました。

10 日間一緒にいてくれた事務局の方々へ。

小野さん、小島さん、若井さん、サポート有難うございました。多くを学びました。

ドイツの研修先の方々へ。

ご丁寧な対応、気持ち、有難うございました。今度は、私達も頑張る番です。

研修生の方々へ。

本当に、濃い時間を共に過ごせて良かったです。（いろんな意味で）これから、自分たちの色をしっかりと活かして、変わっていきましょう。また、会えるのを楽しみにしています。有難うございました。

来年の第 17 回研修生の皆さん、応援しています。